

## 2014 Nurburgring 24 hours Race Report

### 2014 ニュルブルクリンク 24 時間レース レポート

2014 年も GAZOO Racing へ P I A A がライティングシステムを供給  
日本車最上位で完走するほか、3 クラス制覇を達成！  
3 台の GT-R も P I A A ランプを採用、ニッサン勢が好タイムを連発！



#### ■概要／Outline

2014 年のニュルブルクリンク 24 時間レース（以下、ニュル 24 時間）が 6 月 19 日～22 日、1 周・約 25km のニュルブルクリンクを舞台に開催。2011 年よりニュル 24 時間に公式参戦を開始している P I A A は今大会においても「トヨタ GAZOO Racing」のレクサス LFA、レクサス LFA Code-X、トヨタ 86 をサポートするほか、「ニッサン GT アカデミー・チーム RJN」および「シュルツ・モータースポーツ」のニッサン GT-R NISMO GT3 へライティングシステムを供給しており、テクニカルサプライヤーとして過酷な 24 時間レースに参戦した。



165 台が集った 2014 年の大会も序盤から脱落者が続出するサバイバルレースが展開されることとなったが、GAZOO Racing の 53 号車、レクサス LFA Code-X が日本車最上位となる総合 11 位で完走を果たすほか、新設された SP-PRO クラスを制覇。さらに 48 号車のレクサス LFA が総合 13 位、過去最高 148 ラップで SP8 クラスを制するほか、86 号車のトヨタ 86 も SP3 クラスを制し、GAZOO Racing が 3 クラス制覇を達成している。

さらにニッサン GT アカデミー・チーム RJN の 30 号車が 1 回目の予選で 6 番手タイムをマークするほか、80 号車がトップ 30 で 10 番手タイムをマークするなど好タイムを連発。残念ながら 30 号車はリタイアに終わるものの、80 号車が多くの外的トラブルに見舞われながらも総合 24 位、SP9-GT3 クラスの 13 位で完走するほか、シュルツ・モータースポーツの 24 号車が総合 14 位、SP9-GT3 クラスの 11 位で完走を果たすなど、2014 年の大会においても多くのユーザーが上位に食い込むことによって PIAA のパフォーマンスを証明した。



LEXUS LFA Code X SP-PRO クラス優勝、総合 11 位に輝く。

#### ■ニュルブルクリンク 24 時間レースの特徴 / About Nurburgring 24 hours Race

ドイツ中西部のアイフェル山中のサーキット、ニュルブルクリンクを舞台に開催される 24 時間の耐久レースで、もともとは 1970 年にドイツ自動車連盟(ADAC)が主催するローカルイベントとしてスタートした。しかし、90 年代に入ると数多くの自動車メーカーやパーツメーカー、タイヤメーカーが世界屈指の過酷な難コースゆえに開発の場としてここを選び、ワークチームを投入するようになり、近年は参加台数で 150 台オーバー、観客動員数で 20 万人を数えるビッグイベントに発展、ル・マン 24 時間レース同様に人気の耐久レースとして定着した。

舞台となるニュルブルクリンクは 1927 年に建設されたサーキットで、約 20km の北コースと約 5km のグランプリコースを組み合わせた全長 25km のロングコースとなっているのだが、その最大の特徴がノルドシ

ユライフェと呼ばれる北コースだ。ノルドシェライフェは約 20km の距離もさることながら、コースの高低差 300m、コーナー数も大小 170 以上と言われ、超高速から超低速までそのバリエーションは多彩。さらに路面はバンピーで天候が変わりやすいことから、コースの西側がドライでも東側がウエット……といったことも珍しくはない。

加えて照明設備がほとんどないことからナイトセッションではライティングシステムが重要でランプの明るさがタイムに直結する。さらに、他車との接触を回避するうえでも高性能なランプが必須で、しかも、軽量かつコンパクトなシステムが求められていることから、PIAA は正式参戦を開始した 2011 年より専用スペックを開発している。

2011 年は GAZOO Racing をサポートしており、2 台のレクサス LFA へ左右 6 灯の専用ライティングシステムを供給、サポート 2 年目の 2012 年には LFA が過去最高の総合 15 位で SP8 クラスを制覇している。さらに同チームが投入した 2 台のトヨタ 86 にもヘッドランプおよびアシストランプを供給しており、166 号車が SP3 クラスで勝利を飾る。その後も 2013 年には軽量化を果たすべく、LFA に左右 4 灯の最新システムを投入するほか、86 にも横方向の照射を重視したランプを採用することによって GAZOO Racing が活躍したことは記憶に新しい。

さらに 2012 年には Team Nissan GT-R の 23 号車、Team GT Academy の 123 号車もサポートしており、市販車ベースの 2 台のニッサン GT-R にライティングシステムを供給。SP8T クラスで 1-2 フィニッシュを達成したのだが、この実績が高く評価されたのだろう。ニッサンは 2013 年より GT-R の GT3 仕様車のナイトセッション用キットパーツとして PIAA のライティングシステムを採用しており、2013 年の大会ではシュルツ・モータースポーツの 123 号車が予選、決勝ともに好タイムを連発した。

ニュル 24 時間に出場した各チームおよび各ドライバーは明るさ、色、配光ともに PIAA のライティングシステムを高く評価。そのパフォーマンスはライバルチームやコースサイドで撮影するカメラマンが驚くほどで周囲の注目を集めているのである。



#30 NISSAN GT-R nismo GT3

## ■レースレポート/Race Report

年に一度の祭典、ニュル 24 時間が今年もドイツ北西部のサーキット、ニュルブルクリンクで開催。これまで同大会は 5 月中旬に行われてきたのだが、9 時間の中断を経た昨年の大会を見てもわかるとおり、この時期は雨が多いことから今年も時期を変更して 6 月 19 日～22 日のスケジュールで開催された。

今大会のエントリー台数は 177 台と例年より少ないものの、それでも世界各国から自動車メーカーやパー

ツメーカー、タイヤメーカーのワークスチーム、サテライトチームが集結しており、PIAA ユーザーも過酷な 24 時間レースにチャレンジ。そのなかで、最も注目を集めていたのだが、トヨタの開発スタッフで構成されている GAZOO Racing だった。同チームは例年どおり、SP8 クラスに 4.8L エンジンを搭載した 48 号車のレクサス LFA、SP3 クラスに 2L エンジンを搭載した 86 号車のトヨタ 86 を投入するほか、今大会には 5.3L エンジンを搭載した 53 号車のレクサス LFA Code X を「先行開発モデル」として新設の SP-PRO クラスへ投入していたのだが、3 台ともに素晴らしいパフォーマンスを披露している。

なかでも目覚ましい飛躍を遂げたのが、飯田章選手／脇阪寿一選手／井口卓人選手が駆る 53 号車のレクサス LFA Code X にほかならない。予選では総合 24 番手タイムに伸び悩むものの、決勝ではコンスタントな走りを披露。2014 年も序盤から脱落者が続出するサバイバルレースが展開されることとなったが、53 号車は大きなトラブル無く走り抜き、日本車最上位となる総合 11 位で完走し、新設の SP-PRO クラスで勝利を獲得している。そのポテンシャルは GT3 マシンをも凌ぐものであり、2 年目以降熟成が進めば総合優勝をも狙えるパフォーマンスを発揮するだろう。さらに木下隆之選手／石浦宏明選手／大嶋和也選手／“MORIZO”選手らがドライブする 48 号車のレクサス LFA も安定した走りを披露し、総合 13 位で SP8 クラスを制覇。また影山正彦選手／佐藤久美選手／蒲生尚弥選手らがステアリングを握る 86 号車のトヨタ 86 も大きなハプニングに見舞われることなく、総合 54 位で完走を果たし、SP3 クラスで勝利を獲得。その結果、GAZOO Racing は 2014 年の大会において 3 クラス制覇という快挙を達成したのである。



TOYOTA 86

安定した走りで SP3 クラスで圧勝！ コーナリング時のクリッピングポイントが見易いワイド配光と高評価。『コーナリングマシン 86』の潜在能力をナイトセッションでもさらに高めた！

一方、事実上のワークスチームとして 2 台のニッサン GT-R NISMO GT3 を投入したニッサン GT アカデミー・チーム RJN もファーストセッションとなる 19 日のフリー走行から抜群のスピードを披露。ニック・ハイドフェルド選手／アレックス・バンコム選手／ルーカス・オールドネス選手／フローリアン・ストラウス選手の 80 号車が総合 3 番手タイムを叩き出すほか、ミハエル・クウム選手／田中哲也選手／星野一樹選手／千代勝正選手らがステアリングを握る 30 号車も総合 9 番手タイムをマークする。さらに同日の夕刻から始まった 1 回目の予選でも 30 号車が 6 番手タイムをマークするほか、翌 20 日に行われたトップ 30 でも 80 号車が国産車最上位となる 10 番手タイムをマークした。



NISSAN GT-R nismo GT3 (NISSAN GT Academy Team RJN)

残念ながら決勝では30号車が不運なクラッシュでリタイアするほか、80号車もタイヤバースト、クラッシュを喫し、総合24位、SP9 GT3クラスで13位に留まることとなったが、30号車のステアリングを握る星野一樹選手によれば『他車に比べるとワイドな配光で明るかったが、さらにワイド配光になると完璧』と語るようにPIAAのランプシステムに対してはドライバーからの評価は高く、また期待も大きい。

事実、ニッサンGTアカデミー・チームRJNと同様のランプシステムを持つドイツの有力チーム、シュルツ・モータースポーツの24号車が安定した走りを披露。山内一典選手／ジョルダン・トレッソン選手／トビアス・シュルツ選手／ミハエル・シュルツ選手らのドライビングにより、ニッサン勢の最上位となる総合14位／クラス11位で完走を果たした。



NISSAN GT-R nismo GT3 (Schulze Motorsport)

一回目の予選で大クラッシュを喫するも、チームスタッフの懸命な修復作業で、奇跡的に復活、完走を果たす！

そのほか、2014年の大会ではGAZOO Racingのほか、WEC（世界耐久選手権）においてトヨタのワークス活動を担うTMGもトヨタGT86のオプション設定としてPIAAのライティングシステムを採用しており、トヨタ・スイス・レーシングチームの191号車および192号車、ロイヤル・オートモータークラブ・サントヴィスの202号車がPIAAのHIDシステムを装着するなどユーザーが拡大したこともトピックスとていい。もちろん、191号車が総合75位、192号車が総合79位で完走を果たし、V3クラスにおいて1-2フィニッシュを果たすなどリザルトにおいてもPIAAのパフォーマンスを証明する。



Toyota Swiss Racing などの TOYOTA GT86 に PIAA HID システムが採用

さらに、度重なるクラッシュで苦戦を強いられた、トランジット・エンジニアリング・ジャパンが投入した 148 号車のホンダ S2000 をサポートするなどプライベーターチームもバックアップ。いずれも各ユーザーがデイセッションと比べてもタイム落ちの少ないラップを重ねることによって PIAA の技術力を改めてアピールしたのである。



トランジット・エンジニアリング・ジャパン S2000 ※クラッシュ後はボンネットにランプを搭載

PIAA はこのように世界屈指の過酷な難コースへの挑戦により、特にナイトセッションにおけるクラッシュ（事故）を少しでも減らし安全に競技が出来、昼間と変わらぬパフォーマンスが発揮出来るよう、そして過酷なモータースポーツの世界で培った経験、ノウハウを市販製品の技術にフィードバックして、より耐久性・信頼性が高い高性能な製品をお届けする事にこれからも挑戦し続けます。そして PIAA の製品をお使い頂く皆様に、世界一過酷なニュル 24 時間レースで鍛えられた製品と同じ DNA、思いで創られた PIAA 製品をお使い頂く事に、少しでも喜びを感じて頂ければ幸いです。

《Nur24h Photo Gallery》



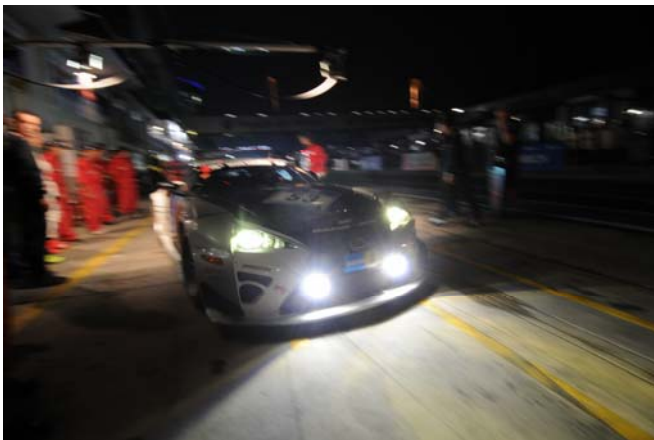
GT-R 強烈なワイド配光でコーナーを照らす



GT-R、LFA 光の競演



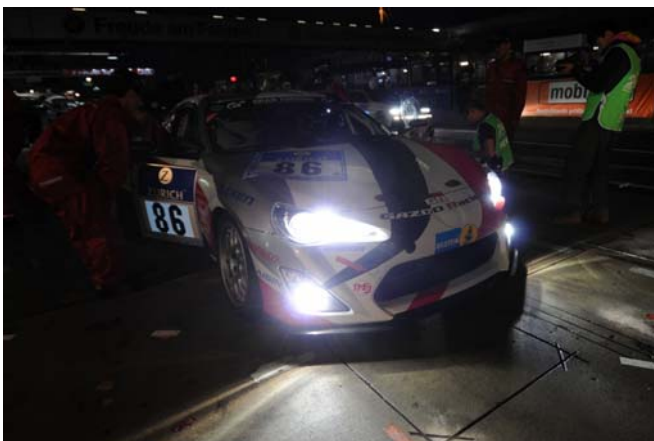
レースウィーク中にアデナウの街（公道）をレースカーがパレード



LFA Code X 路面を強烈に照射！



GT-R 点灯初期は蒼白色



86 Wide Beam!



GT-R #24号車は Yellow Beam!



GT-R



LFA



GT-R #24 予選でクラッシュし懸命の修復で復活！



GT-R 強そうな顔



LFA Code X 予選後のマシン調整



GT-R #80 決勝、夜中の懸命の修復作業



『歓喜！』



『兵どもが夢の跡』



See you next year!